

# 提案対象となるお客様と 適した商品の見極め方

ファイナンシャル・プランナー  
上村 武雄

外貨建ての運用が向いているお客様を紹介したうえで、主な商品の特徴と提案ポイントを解説する。

## 1 外貨建て商品はこんなお客様に提案しよう

### 為替の理解度や保有資産の状況 国内経済や外貨への考え方を確認



仕事や趣味の関係で  
為替に詳しいケースも

#### 2 仕事で為替に 精通している

輸出入取引をはじめとして、海外の企業をカウンターパートナーとする仕事をしているなどの理由で為替に精通しているお客様も多い。特に決済まで行っていれば、為替レートの変動が収益に直結してくるため、シビアに見ているはずである。

為替の動向に詳しいだけでなく、通貨によってどれくらい値動きが違うかというリスク感覚が備わっているお客様も多い。ただし、ポラティリティ（値

#### 1 為替を見ている

外貨建て商品の運用における最大の特徴は、為替変動リスクがあることだ。例えば代表的な外貨建て商品である外貨預金

外貨建て商品で運用することには有用性が高く、数多くのお客様に推奨していくべきであるが、その中でも特に向いている人や、運用したほうがよい人がある。外貨建て商品での運用を提案するにあたっては、そうしたお客様を見つけ出し潜在ニーズを喚起することで、効果的な提案が可能となる。

以下、外貨建ての運用が向いているお客様について、順を追って見ていく。

は、運用している資産そのものに価格変動がないものの、外国為替レートが変動することで株式並みの価格変動が生じることになる。

このことから、為替レートを日々見ているお客様は、外貨建ての運用に向いているということができる。為替レートの変動イメージは、実際に変動を見ていないと分からない。振れ幅が大きい新興国通貨であればなおさらである。普段から為替レートを見ているのであれば、肌感覚として為替変動の影響をイメージすることができるといえる。

#### 7 海外資産はあるが すべて円建て

海外の資産を保有しているものの通貨は円建てというのは、二つのケースが考えられる。

一つは、建値は円だが、中身は外貨建てなので為替変動の影響を受けるケース。これは、実際に外貨建ての運用をしているといえる。

もう一つは、為替リスクを受けないように、為替ヘッジをつけた状態で運用しているケースである。これは、外貨を保有するメリットを享受できないので、通貨分散という観点では、改めて外貨建て商品を検討したお客様といえるだろう。

#### 8 日本に対して 不安を感じている

日本経済の先行きに不安を感じているのであれば、資産防衛という観点から、海外の資産を活用した運用は必須だ。

本国内で暮らしていることを前提とした提案が必要だ。適度な分散を提案していきたい。

外貨建てを含めることで  
運用の選択肢が拡大

#### 6 単純に分散が必要

現在の運用に偏りがある場合は、単純に分散投資が必要となり外貨建て商品を取り入れることにメリットがある。それにより、運用の幅が大きく広がるからだ。言い換えれば、特定の資産にこだわってしまうと、運用の幅が狭められてしまうということである。

世界の様々な魅力的な資産にアクセスするためには、外貨建て商品が必要だ。海外の資産に投資しつつ、為替の影響を受けないように為替ヘッジをつけるケースもあるが、運用コストの追加と金利差拡大のリスクを負うため、メインの戦略にはなりにくい。

である。とすると、外貨建て商品が運用の入り口かのような論調も見られるが、リスクは高めた。

ポラティリティは、米ドル円やユーロ円など対主要通貨でも比較的高く、対新興国の通貨では日本の株式を上回る。デリバティブを使った二階建ての構造を持つ商品についてはさらにリスクが高い。相応の資産を有していることが大前提だ。

#### 5 保有資産が 国内に偏っている

資産運用で一番パフォーマンスを左右するのはアセットアロケーションであり、その基本は分散である。通貨分散はもはや当然であり、保有資産が国内に偏っている＝円建ての資産に偏っているということなので、外貨建て商品を活用した通貨分散が必要である。

ただし、その投資比率を検討するにあたっては、お客様が日

動きの激しさ)に敏感な一方で、金利には詳しくないお客様も多いので、その部分については丁寧な説明が必要となる。

#### 3 よく海外旅行をする

海外旅行を趣味としているようなお客様も、為替レートの変動に敏感である。旅行先に持っていく外貨の購入には為替レートが大きく影響してくるため、外貨両替するタイミングを計っているお客様も多い。

また当然ながら、円安になっているときは旅行代金そのものも明らかに高くなる。海外旅行好きのお客様は為替レートの変動を肌で体感しつつ、手持ち現金の両替レートを見つめながら、実質的にはすでに外貨建て運用をしているような状況である。

#### 4 運用に回せる 豊富な資産がある

外貨建て商品で運用をするには、それなりの資産背景が必要